

北区日中会報

初 行 日
令和 7年 1月 29日
第 5 7 号

編集 北区日中友好協会広報
発行 北区日中友好協会
東京都北区王子 2-14-17
丸山事務所内 TEL03-3911-2381

令和 7年

新年を迎えて



やまだ加奈子会長

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

昨年は4年ぶりに年初より一切の制約のない年となり、経済及び文化面において活況を迎えております。外国人訪日客は3千万人を超え、2019年の記録を大幅に超え、日本を世界に発信し続けて参りましたのは象徴的なことでした。一方、日中間では11月にペルーにおいて日中首脳会談が実現しました。さらに日本人向けの短期ビザが免除され、年末には中国人の日本滞在ビザ緩和措置が発表され、今後の日中交流の促進に期待が持たれます。また、北区においては飛鳥山公園の「平和の女神像」が建立50周年を迎え、中国大使館からも来賓を迎えた記念行事が8月に北とびあで開催され、建立当時の北区民の日中友好に対する熱い思いに参加者は感銘を新たにしているようでした。さらに当会においては2月に春節イベントとして「二胡・雑技・変面ショー」を開催、4月にスポーツ交流会を滝野川体育館で開催し、5月には定期大会と友好促進懇談会を開催しました。8月には北とびあ飛鳥ホールで開催された北区平和祈念週間・納涼盆踊大会に後楽寮生を招待しました。10月には区民まつりに参加、国際ふれあい広場において協力しました。

本年は、日本滞在ビザ緩和措置などにより日中間の交流がより推進されると期待されますが、当会は今年も感染症対策をしっかりと講じたうえで、様々な行事を立案実施していきたいと考えます。具体的な行事は随時、行事計画が決定した段階で皆様にお知らせいたします。

現在、新型コロナウイルスに限らずインフルエンザの感染も増加しております。会員各位におかれましては、昨年同様、正しく恐れ、油断せずにお過ごしいただければと思います。

結びに新年が皆様にとって幸多き年であることをお祈り申し上げます。

納涼盆踊大会に中国からの留学生

北区日中では8月6日に北とびあ・飛鳥ホールで開催された北区平和記念週間・納涼盆踊大会に日中友好会館後楽寮から国費留学の寮生男女14名(他引率に中村事業部長)をご招待しました。会館到着後、初めに全員浴衣に着替えて一人一人の写真撮影会。ファッションモデルのようにポーズもさまになっていました。その後、開会前に1階ロビーに降りて平和記念週間の折り鶴コーナーで折り紙に挑戦、初



めの折り鶴に苦戦する留学生も近くの日本人に手ほどきを受け、出来上が

った折り鶴と笑顔で記念写真に収まっていた。また、会館前広場での

太鼓の演奏にも興味深く聞き入っていました。13階の会場に移動すると、既に多くの人が集まり、山田加奈子北区長(北区日中会長)の挨拶の後、いよいよ盆踊りがスタート。寮生達は盆踊りの輪に入り、東京音頭や炭坑節など、前の人や隣の人を見よう見まねで踊り始めました。ほとんどの寮生は浴衣も盆踊りも初体験で、初めのうちは何となく、ごこちないようにも見えましたが、暫くすると、すっかり周りの日本人の輪に溶け込んでいました。盆踊り終了後は会場近くの町中華・天安門に移動し、北区日中主催の懇親会を開催しました。お食事とお酒が進む内に、最後はカラオケも飛び出し、楽しく和やかに友好を深めて、懇親会をお開きとしました。



区民まつりの国際ふれあい広場

10月5、6日に飛鳥山公園で開催された、ふるさと北区区民まつりの国際ふれあい広場に役員、会員有志が本部ボランティアスタッフとして参加しました。中国（台湾）、インド、フランス（2団体）、ウクライナ、フィリピン、ベトナム、トルコ、アメリカ等の外国人グループが飲食や雑貨販売で出店し、北区日中のスタッフは会場設営、会場案内、来賓接待、販売応援等に携わりました。5日は生憎の雨で来場者も少なく、各出店者は販売に苦労している様子でしたが、6日には雨も上がり、大勢の区民が飛鳥山公園に来場し、国際ふれあい広場も大賑わいの



中、片山さつき参議院議員も視察に訪れるなど、北区日中のスタッフも大忙しでした。

5日の夜の野外ステージではこんなエピソードも・・・

ステージ鑑賞中のスタッフの直ぐ隣に何となく落ち着きのない青年が佇み、かなりの時間が経ってか

らスマホのアプリを使って、こちらに話しかけようとしたのですが、中国語の堪能なスタッフが通訳に入り、事情を聞いてみると、国慶節の連休で来日した上海からの大学生でした。（一人旅で日本人に声をかけるのが恥ずかしかったみたいでした）

飛鳥山公園が東京で有名な公園だと事前に調べていて、翌日に帰国する前に訪ねて来たとのことでした。普段の夜なら人出も少なく、小雨でも中止せずに野外ステージの演目が行われ、また声をかけたのが日中のスタッフという偶然が重なり、一期一会の出会いに本人も「ラッキー」と喜んでステージの演目を楽しんでいました。



日中友好を訪ねる飛鳥山散策

北区日中では、秋晴れの10月20日に日中友好を訪ねる飛鳥山散策を実施しました。

今年、新一万円札の顔となった渋沢栄一が、晩年に暮らした飛鳥山周辺を散策するイベントですが、2021年に続く2回目の実施です。王子駅前に集合した9人は、はじめに第1散策ポイントの北とびあ前に移動しました。



ここには北区の名誉区民であった故北村西望作で知られる「長崎の平和祈念像」の縮小版レプリカが建立されています。この後の第3散策ポイントの「平和の女神像」も北村西望作との説明を受け、参加者は次の散策ポイントの「王子神社」に向かいました。ここは2年前に創建700年を迎えた東京十社の一つで、徳川將軍家祈禱所として厚遇を受けてきました。三代將軍家光は社殿を新たに造営させた他、神社縁起絵巻の制作を命じています。

その絵巻の中に徐福伝来図がありますが、王子神社が徐福伝説の多い紀州熊野権現より奉斎されたことによるものと思われます。絵巻は幕末の火災で焼失していますが、幸いなことに幕府絵所による写本が飛鳥山博物館に残されているとのこと。この日の王子神社は七五三や誕生初宮参りなど、多くの家族連れも参拝に訪れていました。

ここから更に飛鳥山公園に移動しましたが、この日の飛鳥山公園ではハワイアンフェアが開催されていて、多くの来場者が舞台のフラダンス鑑賞やキッチンカーでの食事等を楽しんでいました。

販売の出店テントの間を抜けて、公園中ほどにある第3散策ポイントの「平和の女神像」前に移動しました。この像は1972年の日中国交正常化を記念し、北区の政財界が中心となって募金活動を行い、北村西望氏に制作を依頼し、1974年に建立されました。今年50周年の記念式典が北とびあで開催されていますが、参加者は当時の北区民の日中友好に対する熱い想いに感銘を受けている様子でした。

最後の散策ポイントは旧渋沢庭園です。晩年の30年をこの飛鳥山の邸宅で暮らした渋沢翁は孫文とも交流し、中国の水害では募金活動を行い、辛亥革命直後に本国からの仕送りが途絶えて生活に困窮していた中国人留学生340余名には奨学金を贈るなどの支援をしていたことをガイド役から説明を受け、参加者は深い感銘を受けたようでした。

なお、庭園の中庭でもハワイアンフェアの特設ステージがあり、多くのフラダンスグループが芝生の上で日頃の練習の成果を披露していましたが、多くの観客から盛大な拍手も贈られていました。渋沢翁は世界から多くの賓客を招き、国際交流に尽力していましたが、ハワイのカラカウア王の招待会の折にフラダンスが日本で初めて披露されたことにより、飛鳥山が日本におけるフラダンスの聖地と認識されるようになったようです。この日の散策の参加者は北区における日中友好の歴史に触れながら、ハワイアンフェアも楽しんで頂けたようでした。